



議会だより

おおひら

No.200

令和6年4月25日
発行



大衡村議会



現庁舎



旧庁舎

- P2 議会だより200号特集
- P6 令和6年度当初予算
- P8 予算審査特別委員会
- P15 一般質問

発行50年

200号特集

昭和49年創刊

議会だより

200号を迎えて



議長
高橋 浩之

昭和49年に創刊した「おおひら議会だより」が長い歴史を経て200号になりました。

これまでの諸先輩議員のご活躍とご努力の賜物と感謝申し上げます。半世紀にわたり大衡村の歩みや出来事、日々の議会活動状況を、正しくスピード感をもって村民の皆様にお伝えしてきました。

これから皆様と議会をつなぎ、わかりやすく親しまれる「議会だより」を目指し、ご期待に応え得る議会活動に取り組んでまいります。

これまでの議会のあゆみ

年月	内容
昭和22年 4月	新地方自治法による議会議員選挙(定数22名) 常任委員会条例制定(5委員会)
昭和26年 8月	議員数の減少に関する条例(定数22名→16名) 常任委員会条例改正(5委員会→4委員会)
昭和30年 3月	定例会の回数に関する条例(年6回→3回) 定例会条例改正(年3回→4回)
昭和37年 12月	常任委員会条例改正(4委員会→3委員会) 議会事務局設置(2名)
昭和38年 12月	議会広報創刊
昭和40年 9月	場外馬券売り場反対請願
昭和49年 8月	村長不信任案(否決)
昭和58年 6月	村長解職請求住民投票(不成立)
昭和58年 10月	議会百年史発行
平成元年 9月	平成8年度決算不認定(一般会計、下水道会計) 事務調査特別委員会設置(100条委員会)
平成9年 9月	平成9年度決算不認定(一般会計)
平成10年 9月	議会だより100号
平成11年 4月	委員会条例改正(3委員会)
平成12年 4月	議員定数条例制定(16名)
平成14年 12月	委員会条例改正(3委員会→2委員会)
平成15年 4月	議員定数条例改正(16名→14名)
平成17年 12月	東日本大震災により議員任期延長
平成23年 4月	村長不信任案可決
平成27年 3月	村長による議会解散
平成28年 6月	委員会条例改正(広報広聴常任委員会設置)
平成29年 12月	議会基本条例制定
平成30年 9月	議員定数条例改正(14名→12名)
令和3年 8月	タブレット端末運用開始

議会だより

表紙のうつりかわり



平成12年5月
104号



平成8年1月
87号



昭和49年8月
創刊号



平成29年4月
172号



平成25年10月
158号



平成21年7月
141号

みなさんの声 をいただきました



ときわ台

須藤 充崇さん

ときわ台南に
6年住んでみて

私は、ときわ台南に住んで6年になります。大衡は自然豊かで地域環境もよく、とても住みやすい地域だと感じています。また、手厚い子育て支援も魅力的です。今後、大企業の進出など人口が増加しても、より安全で住みやすい地域にアップデートしていくことに期待しています。



衡中

遠藤 淑子さん

村発展は
国道沿線から

議会だよりは以前から村の情報誌として拝読し、特に一般質問は議員さんの研鑽した議論が楽しみです。これからの村づくりへの要望として、国道沿線にスーパーや道の駅、医療、娯楽施設ができ、住み良い街づくりを願っています。



駒場

齋藤 結さん

愛される
ふるさと

私は、大衡村のスポーツ少年団に所属し多くの方々と関わる事ができました。そこでの学びや経験は人間力を成長させてくれました。今後、地域交流の機会が増え、人々から愛されるふるさとになることを願います。



駒場

佐藤 重雄さん

議会活動に
期待

生活支援をさらに進めていただきありがとうございます。地域では、高齢化や人口減少により空き家や耕作放棄地が増加し高齢者単独世帯も大変な状況になっております。課題解決に挑む議員の姿がより多くの人に伝わることを期待しています。

広報コンクール 表彰歴



平成13年 宮城県町村議会
広報コンクール入選

平成14年 同 入選

平成15年 同 入選

平成16年 同 入選

平成17年 同 特選

平成17年 全国町村議会
広報コンクール奨励賞

平成30年 宮城県町村議会
広報コンクール入選

令和3年 同 奨励賞

令和5年 同 入選

令和6年 同 奨励賞



衛上

八鍬 やくわ

光さん ひかる

継続は力なり

ついに200号！続けるって本当に大変なこと。どんな変わっていく大衡村の未来の舵取り議会の皆様の苦勞も増す一方と感じます。私も農業 20年目になりコツコツ頑張る毎日。本誌での益々の活躍を応援しています。



駒場

富永 とみなが

亜弓さん あゆみ

魅力ある村を目指して

大衡村は子育て支援が手厚く、子育て世代に優しい村ですが、今後は大きな工場が進出するにあたり、商業施設の誘致や交通の利便性の向上等を村政に期待したいです。これからも村民が住みやすく、魅力ある村を目指してまいります。



藤崎

木村 きむら

美友さん みゆ

私の宝物

私の宝物は大衡で出会った同級生達です。それぞれ歩んでいる道は違うものの今でも週末出かけたり、旅行に行ったり、一緒に年を越したり用もなく集まってくだらな話をする程の仲です。これからも大衡で共に育った仲間を大切にしたいです。



衡東

城戸口 きとぐち

孝さん こう

議会だよりのレイアウト

議会だよりは、毎号拝読しています。今年から後期高齢者になりましたが、村の人口減少で未来の若者が定住するような村から町へ変える施策を期待します。議会に関心を持つような議会だよりのレイアウトと議員の奮起を願っています。



議会だよりの

奨励賞を受賞

本村の「みやぎおおひら議会だよりの第195号」が、第43回宮城県町村議会広報選考会で奨励賞を受賞しました。

今後も皆様にとって読みやすく親しみやすい議会だよりの目指し、精進してまいります。

2億1千万円

一般会計予算 46億5,000万円



企業立地が進む工業団地

令和6年第1回定例会は、3月5日から15日までの11日間にわたり開かれた。
 村長提出案件は、固定資産評価委員会委員の選任1件、人権擁護委員推薦の諮問2件、条例制定1件、条例改正

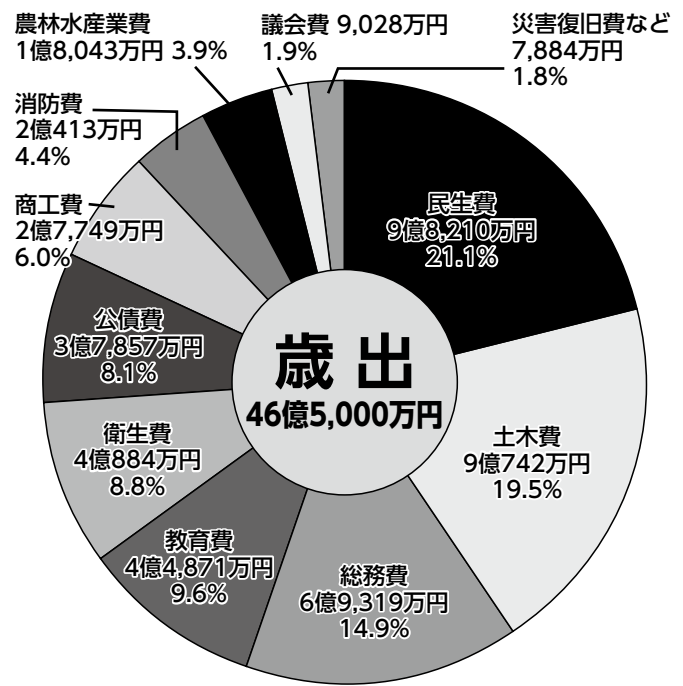
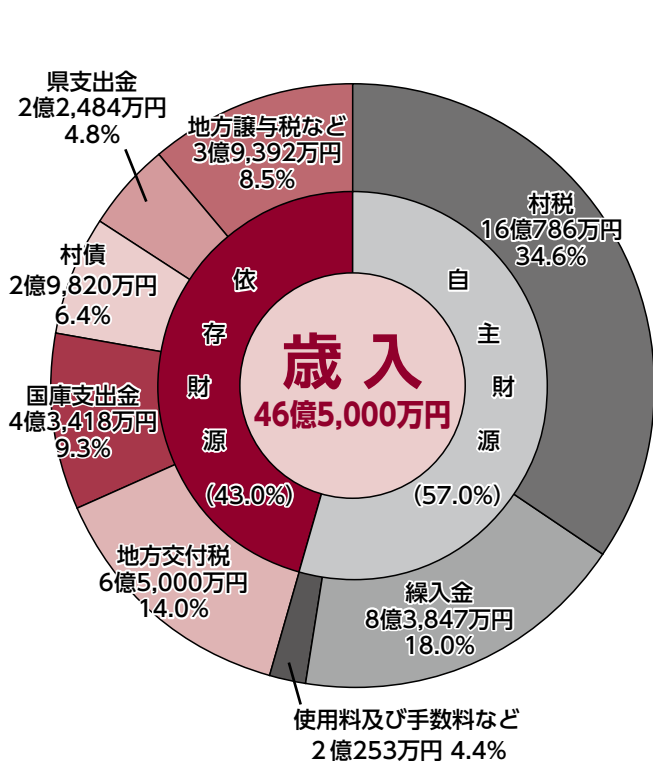
15件、財産の取得1件、令和5年度補正予算8件、令和6年度各種会計当初予算6件の全34議案が提出され、全て原案どおり可決された。一般質問は9名の議員が質問し、15Pから24Pに掲載しています。

◎各種会計予算

会計別		予算額	前年度比
特別会計	国民健康保険事業	5億6,800万円	1,100万円
	介護保険事業	6億2,500万円	△2,700万円
	後期高齢者医療	6,400万円	300万円
水道	収益的収入	2億4,191万円	△514万円
	収益的支出	2億3,808万円	471万円
	資本的収入	2億8,341万円	1億8,801万円
	資本的支出	3億1,856万円	1億2,622万円
下水道	収益的収入支出	3億5,000万円	-
	資本的収入支出	1億9,414万円	-

令和6年度
当初予算

企業立地奨励金に



- ◆ 主な実施事業 ◆
- ・村道改良事業 …………… 2億1,878万円
 - ・企業立地促進奨励金 …… 2億1,316万円
 - ・河川土砂しゅんせつ事業 …… 9,370万円
 - ・橋梁維持補修事業 …………… 6,000万円
 - ・空き家、定住促進補助金 …… 1,700万円
 - ・クリエートパークキャンプ場整備 … 1,100万円
 - ・デマンド型交通運行 …………… 1,315万円

完成が待たれるクリエートパークキャンプ場

れるのか

令和6年度各種会計の予算を審査するため、予算審査特別委員会が5日間にわたり開かれました。

特別委員会では各課などに質疑を行い、審議した結果、全会計とも「可決すべき」と決定し、3月15日の本会議で議長に報告しました。



細川運一委員長

主な質疑

企業立地

問 企業立地促進奨励金の交付対象社数と交付金額は。

答 前年度からの継続も含め6社に8486万円、新規見込みが3社に1億2830万円で合計9社に2億1316万円を交付する。この中には立地が決定した半導体企業も含まれる。

体育施設管理

問 村管理体育施設の中には利用されていない施設もある。維持管理方法の見直しも必要ではないか。

答 中にはコロナ過等により利用が少ない施設もあり、用途変更も含めて検討していきたい。
指定管理施設も含め、体育施設全体の利用状況を見て管理の在り方を再検討していく。

河川愛護

問 河川愛護作業の実施方法が変更になるが、契約や作業内容の詳細は。

答 県管理の河川は県と村で委託契約し、さらに村と地区愛護会で作業委託契約を締結する。今までの奉仕作業から委託作業になるが、作業内容や時期は同じである。

問 河川の河床には王城寺原演習場等からの土砂が堆積し、流れの妨げにもなっている。防衛省や関係機関に土砂撤去を要請すべきでないか。

答 防衛省には演習場の障害防止対策について、今後も継続し要望していく。



住民の協力による河川愛護作業

予算 質疑

予算はどう使わ

ごみ収集業務

問 6年度から新たな収集委託業務になるが契約内容の詳細は。

答 条件付き一般競争入札の結果、大衡環境衛生組合と契約した。契約期間は令和6年度から10年度まで5年間、契約金額は2億210万円である。
人件費や燃料等の高騰から現契約金額より上がっている。

割増し商品券

問 商品券発行の概要と使用期限は。

答 くろかわ商工会に委託して発行し、2000セット(2割増額面2400万円分)を発行する。

問 村内において使用できる取扱店舗が少ない。毎年発行を継続しているが経済効果は。

答 村内53店舗事業所に登録いただいている。他市町に比べ店舗数は少ないが、毎年発行枚数は完売しており、村内店舗の売り上げ向上につながっている。

村史編さん

問 5年度の人件費予算を減額しているが、6年度の編さん業務はどう進めるのか。

答 5年度は会計年度任用職員を雇用できず業務が停滞し、人件費予算を減額した。

6年度は専任職員1名を採用し、編さん委員会や資料収集執筆の業務は外部に委託し、令和10年発行を目指していく。

シルバー人材センター

問 村補助金として1300万円を計上しているが、シルバー人材センターの会員数と就業状況は。

答 現在会員数は102名であり、年間就業人数は3500人を見込んでいる。

県費補助基準には1500人不足している状況であり、新たな業務作業を拡大し、目標達成に努めていく。

介護保険

問 次年度から第9期介護保険計画になるが、現在の介護認定者数は。

答 介護認定者数は要支援1・2が79名、介護1から介護5までが258名で合計337名である。

問 保険料や介護サービスはどうなるのか。

答 保険料の区分は今までの9段階から13段階に増える。必要な介護サービス給付が第8期より低くなる見込みで、保険料額は現在より下がる。

定住促進

問 補助事業の内容は。

答 若者世帯定住促進補助金と三世帯同居促進補助金の2つがある。

問 来年度までの補助事業だが、事業内容の見直し予定は。

答 これまでの実績を踏まえ事業の評価をし、継続の必要性も含め検討していく。村内在住の流出防止対策も検討課題である。



シルバー人材によるチラシ区分け作業

社会福祉協議会

問 村社会福祉協議会への委託業務や補助金の内訳は。

答 村から社協への委託業務は社会福祉業務運営の広範囲にわたり委託している。

社協職員人件費も8名分を村からの運営補助金や委託料で賄っている。

問 村の社会福祉業務全般における社協との連携や位置付けは。

答 福祉業務全体にわたり社協の役割は大変重要であり、今後も連携しながら地域福祉を推進していく。

空き家対策

問 家財等片付け補助金と除却費補助金の内容は。

答 空き家の所有者で空き家バンクに登録している方。

空き家の片付け費用に上限額10万円。空き家の除却工事費に上限額50万円を補助する。

問 空き家数と空き家バンク登録者の件数は。また村ホームページ等での空き家情報が増えていると感じる。情報の発信力を高めるべきでは。

答 空き家数66件で登録者は6件である。今回の補助金について周知徹底を図り、登録者件数を増やしていきたい。

奨学資金

問 奨学資金の貸付者数、償還者数、新規申請者数と償還の状況は。

答 令和5年度貸付者は2名、償還者は現年度と滞納繰越分合せて33名である。新規の申込者は現在のところ0であり、平成19年度から長年滞納しているケースがあり、定期的な催促、自宅訪問を行なっている。

ふるさと祭り

問 令和6年度以降のまつりの開催内容は。

答 万葉まつりとふるさと祭りを1本化して開催し、内容は名称も含め実行委員会を開催して意見等を聞きながら検討し規模を縮小せず村民皆さんが楽しめるイベントを開催していく。予算額は800万円を計上している。



いきいきサロンでリフレッシュ



皆さんが楽しめるイベントに

総括質疑

半導体産業の受け入れ体制強化を

佐野 英俊 委員

問 半導体産業立地の関連予算が「都市計画マスタープランの見直し」と「下水道管の増設詳細設計」の事業費だけでは、不安を感じる。

答 周辺市町は「立地推進室」などの設置もあり、受け入れ体制を強化すべきでないか。

問 県のワンストップ窓口対応で情報が少ないが、今後動きが活発化すると考え、必要に応じ臨時会を開催し進める。

答 令和6年度中に行政組織機構改革を行う。職員1名を県産業立地推進課に派遣中で、連携を密にし支援して行く。

問 道路整備と軌道系輸送手段の必要性を発信しては。

答 夢的な構想なども機会ある都度話していく。

問 大衡未来シリコンバレー構想を目指し、半導体産業の受け入れ事業を推進する。

ふるさと納税の更なる取り組みとホームページの充実を

鈴木 和信 委員

ふるさと納税の実態

問 ふるさと納税は平成30・31年の850万円をピークに減少し500万円を切る状態で、返礼品の種類が少なく魅力を感じないと思う。

答 返礼品が増えるように努めたい。

おおひら館のリニューアル

問 農家が農産加工から販売までできるようにおおひら館のリニューアルを図ることが6次産業としての活性化が図られ、返礼品のメニュー増加につながると考える。

答 農業・商工の活性化のためにも検討していきたい。

ホームページの充実

問 半導体工場進出に伴い、大衡村のHP・SNSへのアクセス数が増え上りに増えてくるので、ふるさと納税・空き家バンク・子育て支援・施設の紹介など他の町のように見やすく・操作しやすく再構築すべきでないか。

答 2年前に更新したばかりであるが、近年の大衡村の状況を考慮して早急に検討したい。

公共施設の管理方針を問う

石川 敏 委員

問 公共施設の中には利用されていない施設や維持管理に課題がある施設が見受けられる。今後どう管理していくのか。

答 ①大衡城青少年交流館：改修工事はせず廃止や取り壊しを6年度中に方針を決定。

②村民ブランド：運動広場として使用していないので、用途変更も検討する。

③多目的施設・旧幼稚園遊戯室：修繕や改修は最小限にとどめ、他施設との統合や機能移転を検討する。

④五反田北住宅1号棟：入居者の転居が完了しており、7年度に解体工事を行う。跡地は戸建て住宅用地に活用したい。

問 公共施設の管理体制を施設ごとではなく一元化するべきではないか。

答 また、公共施設整備基金への積み立てを増やすべきではないか。

問 6年度中に庁内機構再編にあたり、公共施設の管理体制も含め検討したい。財源確保のため整備基金への積み立ても併せて考える。

令和5年度
補正予算

上北沢排水処理場 更新計画を再検討

補正の主なもの

◎歳入

村税 …………… 3,250万円
基金繰入金 …………… △2億8,895万円
村債 …………… △3,705万円

◎歳出

上北沢排水処理場更新工事費…
△1億7,760万円

◎主な繰越明許費

村道尾西2号線改良舗装事業 …………… 6,144万円
大瓜野田橋維持補修事業 …………… 3,326万円
万葉クリエートパークキャンプ場整備事業 …… 886万円

※繰越明許費
特別の事情によって工事が年度内に完了することができない場合翌年度に予算を繰り越して支出ができる。

◎各種会計補正額

会計別	補正額	予算額	
一般会計	△2億7,368万円	53億1,167万円	
特別会計	国民健康保険事業	832万円	5億8,263万円
	下水道事業	△3,570万円	2億3,609万円
	介護保険事業	△1,503万円	6億8,646万円
	戸別合併処理浄化槽	△170万円	4,727万円
	後期高齢者医療	248万円	6,604万円
水道	収益的支出	6万円	2億3,689万円
	資本的支出	△8,176万円	1億9,887万円

問 各応援金の支給見込み人数は。
答 出産応援金、子育て応援金とも40人ずつ見込んでいたが、出生児数が少なく出産応援金は23名、子育て応援金は29名の見込みであり減額する。

出産・子育て応援金

スクールバス

問 スクールバス購入基金への積み立て理由と、バスの更新計画はあるのか。
答 教育費全体の予算精査の結果500万円を基金に積み立てる。

繰越明許費

問 村道の尾西2号線、クリエートパークキャンプ場の繰越理由は。
答 土木費の尾西2号線は掘削中に、不明な埋設物の調査に時間を要したため。

バスは4台とも相当の年数を経過しているため、小学校の児童生徒数や運行路線を勘案しながら更新時期を検討する。

キャンプ場は、本体工事は3月末で完了するが、附带工事の入場ゲートの製品納入に時間を要し、いずれも5月末まで繰越しとなる。



翌年度へ繰越す尾西2号線工事

主 な 質 疑

条例

主な改正の内容	
下水道事業の設置等に関する条例の制定 下水道事業特別会計及び戸別合併処理浄化槽特別会計の令和6年度からの公営企業会計に移行するため、必要となる条例の整備をするもの。	私債権管理条例の改正 実情に合わせた債権整理ができるよう債権放棄できる要件を追加するもの。
都市公園条例の改正 有料公園施設にキャンプ場を追加するもの。	介護保険条例の改正 第9期介護保険事業計画策定に伴い保険料率を改正するもの。

下水道設置条例

問 現在の下水道事業と戸別合併処理浄化槽事業を一本化にする条例と解するが、詳細は。

答 下水道及び合併浄化槽とも公営企業会計に移行するため、新たな下水道事業条例を制定するもの。現在の合併浄化槽特別会計は下水道事業会計に含まれることになる。

都市公園条例

問 新たに設置するクリートパークキャンプ場の利用者数、利用料収入の見込みと、管理運営は。

答 利用者数は年間6000人を見込んでいます。隣接する万葉おおひら館の販売にもつながるよう指定管理者側と協議していきたい。

介護保険条例

問 保険料区分が現在の9段階から13段階まで増えるが、保険料が上がる区分に該当する保険者数の見込みは。

答 次年度から3年間の第9期介護保険計画全体の見直しは、新たに設定する10段階から13段階に該当する人数は合計39名と試算している。保険料額は、必要な各種介護サービス給付等を基に算定し、各区分の保険料は現在より低くなる。

給食配送車

問 車両購入にかかる入札状況は。現在の配送車はいつまで使用できるのか。

答 5者の指名競争入札で2者が辞退し、3者による入札となった。納期は7年3月31日であり、現在の配送車は納車まで使用する。

学校給食配送車

財産取得

取得価格 ……………7,969,806円
 契約相手方 ……………いすゞ自動車東北(株)



現在の給食配送車

固定資産評価審査委員の選任に同意

さいとう ひさし
 齋藤 久氏

任期 令和6年3月8日～令和7年6月30日(前任者の残任期間)

人権擁護委員候補者の推薦に適任と答申

せと よういち おかわ れいこ
 瀬戸 洋一氏 小川 玲子氏

任期 3年(令和6年7月1日～令和9年6月30日)

令和6年3月定例会提出議案 34件

- 同意第 1号 大衡村固定資産評価審査委員会委員の選任
- 諮問第 1号 人権擁護委員候補者の推薦
- 諮問第 2号 人権擁護委員候補者の推薦
- 議案第 5号 大衡村下水道事業の設置等に関する条例の制定
- 議案第 6号 職員の育児休業等に関する条例の改正
- 議案第 7号 職員の給与に関する条例の改正
- 議案第 8号 大衡村会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の改正
- 議案第 9号 大衡村私債権管理条例の改正
- 議案第10号 大衡村特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の改正
- 議案第11号 大衡村介護保険条例の改正
- 議案第12号 大衡村指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の改正
- 議案第13号 大衡村指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の改正
- 議案第14号 大衡村指定地域密着型サービスの事業者等の指定に関する基準を定める条例の改正
- 議案第15号 大衡村指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の改正
- 議案第16号 大衡村指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の改正

- 議案第17号 大衡村地区計画区域内における建築物の制限に関する条例の改正
- 議案第18号 大衡村都市公園条例の改正
- 議案第19号 大衡村企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の改正
- 議案第20号 大衡村水道事業給水条例の改正
- 議案第21号 財産の取得
- 議案第22号 令和5年度大衡村一般会計予算の補正
- 議案第23号 令和5年度大衡村国民健康保険事業勘定特別会計予算の補正
- 議案第24号 令和5年度大衡村下水道事業特別会計予算の補正
- 議案第25号 令和5年度大衡村介護保険事業勘定特別会計予算の補正
- 議案第26号 令和5年度大衡村戸別合併処理浄化槽特別会計予算の補正
- 議案第27号 令和5年度大衡村後期高齢者医療特別会計予算の補正
- 議案第28号 令和5年度大衡村水道事業会計予算の補正
- 議案第29号 令和6年度大衡村一般会計予算
- 議案第30号 令和6年度大衡村国民健康保険事業勘定特別会計予算
- 議案第31号 令和6年度大衡村介護保険事業勘定特別会計予算
- 議案第32号 令和6年度大衡村後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第33号 令和6年度大衡村水道事業会計予算
- 議案第34号 令和6年度大衡村下水道事業会計予算
(追加提出議案)
- 議案第35号 令和5年度大衡村一般会計予算の補正

◇採決状況◇

○賛成 ×反対 議長（高橋浩之）は採決に加わらない。

議案	山本 信悟	早坂 美華	鈴木 和信	小川 克也	佐野 英俊	赤間しづ江	文屋 裕男	細川 運一	遠藤 昌一	佐々木 金彌	石川 敏	高橋 浩之	議決結果 (賛成:反対)
同意第 1号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決 (11:0)
諮問第 1・2号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決 (11:0)
議案第21号～第35号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決 (11:0)

一般 質問



9名の議員が村政を問う

質問者一覧表

鈴木 和信

- ・物価高騰に対し村独自の生活支援策を
- ・高校生の通学支援を
- ・空き家対策を積極的に取り組む考えは

佐々木 金彌

- ・村をどのように運営していくのか
- ・役場内の機構再編について伺う

文屋 裕男

- ・大衡村の農業の取り組みについて
- ・ため池の管理について

早坂 美華

- ・小・中学校での子ども達の学校環境の現状といじめ問題について問う
- ・本村で取り入れた、クロームブックの活用状況について問う

石川 敏

- ・大規模自然災害への対応策について問う

細川 運一

- ・教育委員の報酬の見直しとペーパーレス化
- ・万葉おおひら館(農産物展示販売所)の現状と評価

赤間 しづ江

- ・北四番丁大衡線整備の進捗状況は

山本 信悟

- ・今後の農道、圃場整備をどう考えているのか

佐野 英俊

- ・半導体工場立地に伴うまちづくりを問う

議会を

傍聴してみませんか

皆さんが選んだ議員がどのような質問・発言をしているのか、村の執行部がどのような施策を考えているのか、是非議場で傍聴してみませんか。

次の定例会は

6月4日(火)

からの予定です

お問合せ先:大衡村議会事務局

☎345-6030

✉ gikai@village.ohira.miyagi.jp

※会議録は大衡村議会ホームページで閲覧できます。



ここから大衡村議会ホームページにアクセスできます。

物価高騰に村独自の支援策は 村単独では難しい



ひら麻呂商品券

問 物価高騰は村民生活を圧迫している、年金生活者や低所得者などへの商品券配布や非課税世帯への水道基本料金免除など生活支援が必要ではないか。

村長 割増商品券は補助を継続するが、ひら麻呂商品券及び水道基本料金減免は国の交付金次第であり村単独では難しい。



すずき かずのぶ 議員
鈴木 和信 議員

高校生の通学支援を 現時点では対応できない

問 高校生がデマンド交通を利用できないのは、村民の公平平等の原則に反する。利用ニーズに併せて対応すべきではないか。

村長 デマンド型交通試験運行事業実施要綱に利用対象者を高校生を除くとしている。

問 送迎のできない家庭は、通学に困難をきたす。高校生もデマンド交通に条件付きでも対応すべきではないか。

村長 すべての高校生が利用できるようになると対応が難しいので、今後検討していきたい。

空き家対策を積極的に取組む考えは 関係機関と連携して対応する



有効活用が望まれる空き家

問 空き家は現在60件以上あり有効活用ができれば、半導体進出工場への住居の提供にもつながるため、積極的に取組む必要があるのではないか。

村長 相談体制は専門知識が必要のため、庁内関係機関及び関係団体と連携して積極的に進めていきたい。



ささき きんや 議員
佐々木 金彌

村をどのように運営していくのか 企業進出に伴うインフラ整備を進める

問 大衡村に大手半導体企業の進出が決定する一方、農業では転作田への水張り確認が問題視されている。また住宅地や商店・医療機関の不足が話題になっており、村長に就任し1年になる今、村をどのように運営していくのか。

村長 転作については地区懇談会でも話題になった。水張りルールに取り組む農家に10a当たり3千円の補助金を村独自に助成する。

住宅地については五反田亀岡地区と河原座府地区の地区計画を住民へ説明していく。

問 半導体企業に千人の従業員が見込まれ、インフラ整備を早急に進める必要があるのでは。

村長 先進地である熊本県菊陽町を視察し、最初に取り組むことはインフラ整備であると教示を受けた。

4号線の予算も6億円から19億円に増加されることとなり、現在は県道仙台大衡線の早期促進と古舘前から衡下への4車線化を県に要請している。

今後工場立地に伴い大衡も様変わりが想定されるが、的確な政策に努めていく。

役場内の機構再編は 事業・人員の再配置を検討

問 11月の議会全員協議会において、役場内の9課を12課にしたいとの再編について説明があり質疑が交わされた。議会や住民から理解が得られる内容を示すべきではないか。

村長 下水道会計と浄化槽会計が法適化され、都市建設課から上下水道課を分離する。

こども家庭センターの設置が努力義務となるので庁内の行政組織機構再編検討委員会で検討してきた。健康福祉課から子育て支援室を独立させたい。

さらに村の政策立案を拡充させるために企画財政課から企画課として独立させる等、事務事業や人員の適正配置についてさらに検討を加え機構改革を行いたい。



朝夕渋滞する衡下交差点

大衡村の農業の取り組みは 意向調査を踏まえて検討する



ぶんや ひろお 議員
文屋 裕男

問 農家は国が示す農業政策に振り回されている。47%の減反を農家に押し付け水張りルールは農家に大きな負担になる。1か月以上水張りをしなければ水田として認めず奨励金もゼロになる。農業経営は破綻してしまふ。村で補填できないか。

村長 47%の減反になるが農家としては大打撃になる。水張りルールでは大衡村地域水田農業推進協議会において村単独の助成を行う。奨励金の補填については財源上難しい。

問 高齢化による耕作放棄地が多く見られる。農業地域の見直しをすべきではないか。

村長 村の土地利用、農振地域の振興計画は見直しの時期である。

問 高齢化や農業機械の老朽化により離農者が増えている。委託面積が増加しているが。

村長 農業者の高齢化はどんどん進んでおり、農業法人も同様である。地域計画の意向調査を踏まえながら農業を維持していく。



水張りが難しい転作地

農業用ため池の管理を問う 受益農家に協力願いたい

問 ため池の管理は受益者が行っているが使用しなくなったため池は土砂崩れで埋まり放置されたままである。本来は所有者である村が管理すべきではないか。

村長 ため池の管理は農家にお願している。
農業用水に使われていないため池は廃止も考えていきたい。

問 ため池堤体の草刈りは大変きつい仕事で事故が起きたら大変である。

令和6年度に河川愛護作業に補助金が予算化されたが、ため池の堤体草刈りにも補助金を考えてはどうか。

村長 河川愛護も高齢化に伴い住民の皆さんの要望で県と村とで予算化した。ため池の堤体草刈りの予算は財源を見ながら考えていく。



はやさか みか 議員
早坂 美華

小・中学校の教育環境は 関係機関と連携を図っていく

教員人数と研修

問 全国的にも教員不足は問題になっているが本村の小・中学校の教員人数は。

村長 小学校23人、中学校18人となっている。

問 時代の変化やニーズに対応するために教員研修は必要だと思うが、行っているのか。

指導主事 1年目から3年目、5年、10年、20年ごとに経験段階に応じた研修に参加している。

不登校・いじめ問題

問 全国的にも不登校生徒の人数は年々増加しているが、本村の小・中学校の不登校生徒の人数と対応方法は。

村長 小学校11人、中学校20人となっている。

※ S C、※ S S W、心のケアハウス、福祉部局等と連携し、学校復帰のみを目標とせず社会的に自立できるように支援していく。

- ※ S C スクールカウンセラー
- ※ S S W スクールソーシャルワーカー

問 今後のいじめ問題を村全体として、どのように考えていくか。

村長 大衡村いじめ問題対策連絡協議会で学校、PTA、地域の各機関と情報共有し連携を図っていく。

クロームブック活用状況は 学力向上につなげていく

タブレット活用

問 学校教育でもICT化が推奨される中、導入3年目となったタブレットの活用状況は。

村長 違いはあるが、使用頻度や活用方法の幅が少しずつ向上している。

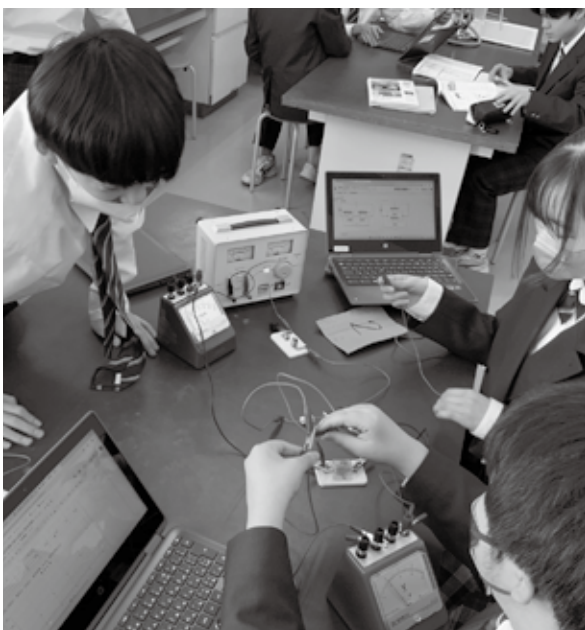
問 オンライン授業、宿題などで不登校生徒等に配信など行う考えはないか。

村長 教員のスキルアップを図り、深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、学力向上につなげていく。

教育長

ネット配信の実績はある。小学校も持ち帰りを推奨しているが、モラル関係等が難しいので、状況を見ながら学校で判断している。

問 今後のタブレット活用の展望は。



実験結果をタブレットに入力(中学校)

自然災害への備えを平時から 防災意識を強く持っていく



いしかわ
石川
さとし
敏 議員

被害想定

問 大規模災害が発生した場合、道路や上下水道、電力のインフラや建物などの被害はどう想定しているか。

村長 近年の災害は大規模で激甚化しており、各分野への影響は具体的な想定までは進んでいない。

村地域防災計画に基づき、防災・減災に努め大規模災害に備えていく。

初動体制

問 災害が発生した場合は迅速な初動体制が重要である。災害対策本部の立ち上げや被害状況の把握、支援要請はどのように準備しているのか。

村長 職員災害初動マニュアルに基づき対応する。災害対策本部や避難所の設置、自主防災組織や消防団による安否確認、被災状況の確認を行う。

また、協定締結している災害応急措置協力会や関係機関への支援要請も行っていく。

避難所運営

問 避難所を設置した場合、運営責任者や人員配置はどうするのか。また運営には女性スタッフも必要ではないか。

村長 村内の指定避難所は23カ所、福祉避難所を4カ所指定している。

避難所は地区の自主防災組織を中心に開設運営していただくが、女性の役割も大事であると考えている。

災害備蓄品

問 災害用備蓄品の品目や数量は十分か。また冬季時の災害や女性、乳幼児にも対応しているか。

村長 食料品や飲料水、発電機、毛布、段ボールベッド等の防災用資機材、さらに衛生用品、生理用品など必要な数量を常に確保している。提携しているスーパードームセンターには生活物資や冷暖房機器の調達、供給も要請していく。

防災訓練

問 防災訓練は大人だけでなく、小中学生など幅広い年代の参加も必要ではないか。

村長 村全体の総合防災訓練と地区自主防災組織ごとの訓練を実施している。女性の視点での防災事業や子ども達も参加できる訓練等、防災意識の向上を強く持っていきたい。



非常時に備えた訓練を(総合防災訓練)



ほそかわ うんいち
細川 運一 議員

教育委員の報酬の見直しと ペーパーレス化を

総合的に検討していく

問 教育委員会は、教育行政における重要な事項を決定する機関で、委員の方々は、村民の思いや意見を伝える役割を担っている。報酬は、年額15万円となっているが、その職責や活動内容などを判断すれば、見直しを図るべきではないか。

村長 現在の報酬額は、低いと思っている。他の自治体の状況を見て検討していく。

問 会議のペーパーレス化を図るために、タブレットを導入する考えは。

村長 委員会での資料の閲覧のみでの活用となることから、使用用途や使用頻度を検討する必要がある。

問 施政方針でおおひら館の運営は、厳しい状況であると述べている。どのような職員体制で運営されているのか。

村長 館長を含め、契約社員・アルバイト等17人のスタッフで年末年始以外は、無休で運営している。

問 出荷している村内生産者数と販売額は。

村長 村内生産者数は、53人で販売額は、令和4年度で1758万円となっている。

問 年間販売額と施設利用者数の推移は。

村長 令和4年度の販売収入額は、1億6558万円で、利用者数は、9464人となっている。前年度と比較すると、売り上げで、2487万円・利用者1651人の減少となっている。

万葉おおひら館の現状と評価は 魅力ある施設運営に

問 指定管理施設としての収支決算は、公表できないのか。

村長 まちづくりセンターが指定管理をしている施設別の収支決算は、公表していないが検討していく。

問 まちづくりセンターの社長を副村長が務めているが、村長の補佐役に専念させるべきではないか。

村長 このような形でやっていたことが、いいとは思っていない。これからの本村の変化などを見据えながら考えていきたい。



魅力あるおおひら館に

北四番丁大衡線の進捗状況は 6年度は用地補償調査に入る



あかま え
赤間 しづ江 議員

村道五反田団地線

問 半導体工場立地を受けて、国道等インフラ整備の促進が期待されている。新設される村道五反田団地線の地権者数と進捗状況は。

村長 用地買収予定地権者は4名である。

現在、道路詳細設計の段階になっており地権者の了解を得たので今年度中に境界立会いを進める。

北四番丁大衡線

問 大衡工区について事業の進捗と来年度以降のスケジュールは。

村長 5年度は、道路、橋梁の詳細設計、現地測量、用地測量が進められ大和町

車線等の規格

問 詳細設計を経て路線確定となるが、大衡工区の道路の延長、車線数はどうなるのか。

村長 北四大衡線の大衡村分は1.6km、片側2車線で両側歩道付きの道路である。

村道の国道接続

問 五反田交差点から国道4号に通じる村道大童平林線の国道接続はどうなるのか。

村長 県の説明によると、村道は埋川と定住促進住宅の間を通って新設の北四大衡線に接続し、国道に直接とはならない計画である。

土地利用計画

問 新たな県道が整備されることで、周辺の環境が大きく変わってくる。将来の土地利用計画をどう考えているのか。

村長 大衡工区の沿線には善川及び埋川があり、圃場についても農振農用地で開発が難しい地域となっている。

今後については、五反田・亀岡地区、河原・座府地区の地区整備計画区域における住宅や商工業の成熟状況を注視し、地区計画の拡大、大和町側からの市街化地区の拡大なども検討していく。



県道北四番丁大衡線ルート図



やまもと しんご
山本 信悟 議員

今後の農道、圃場整備を どう考えるか

補助事業を考え構築していく

圃場整備

問 圃場整備から60年ほど経過しているが、農道圃場の把握と、作業の効率・安全性を高めるため整備が必要ではないか。

村長 整備後村道に昇格し廃止したものもあり、各地区の農業者が管理されている。また、村の補助等を活用し多少の変化はあると認識している。

問

地域計画は令和7年3月までに義務化されるが、条件の悪い圃場は遊休地になり、また、圃場整備には地権者の同意が必要である。大衡に合った整備を進めては。

産業振興課長 大衡独自の農業環境整備支援事業の補助金を拡充しながら支援事業を考えていく。



作業性の悪い狭い農道

後継者支援

問 担い手後継者づくり対策としての農業次世代人材投資事業補助金の内容は。

村長 村としては、農業次世代人材投資事業補助金を活用し農業雇用へ助成を行っている。

産業振興課長 ①経営開始型最長5年、1年目から3年目まで150万円、4年目・5年目120万円の事業②準備型最大150万円が最長2年間交付される事業である。情報の発信としてホームページ、広報誌等で情報提供している。

4号拡幅と接続道

問 4号線から接続道への進入が路側帯もなく事故と渋滞が懸念されることから一般通行車両等へ啓発と安全対策は。

村長 国土交通省と村で地権者の方々と現地立ち合いをし、今後も説明し対応していきたい。



危ない4号線からの出入口(蕨崎地区)

半導体工場立地に伴うまちづくりは 期待と不安のバランスに配慮する



ひでとし 議員
佐野 英俊

先進都市を視察
問 半導体バブルにわく熊本県菊陽町を視察して感じたことは。

村長 人口の増加や雇用の創出、税収増、地域の活性化、産業の集積が期待できるメリットと、交通渋滞の発生、労働力不足、住宅不足、文化の違い、外国語対応への不安などのデメリットが想定される。企業進出の期待と不安のバランスを最適化し、産業と生活の両立が必要と感じた。

インフラの整備
問 地域インフラ整備の課題と対応は。

村長 最大の課題は交通の渋滞を懸念し、国道4号拡幅、県道仙台大衡線の整備

促進、県道大衡駒場線と村道奥田工業団地西線の整備を県と連携し進める。

問 今でも交通渋滞が発生しており、道路を整備しても車通勤には限界がある。仙台市からの通勤者が増えることが想定され、仙台北部地域への軌道系の整備要望を広域的に発信しては。

村長 令和9年に工場が操業するのでバス輸送も必要があり、軌道系や富谷市で検討している※BRTなどを広域的に進める必要があると考える。

※BRT
バス高速輸送システム

問 村の直面する課題と対応は。

村長 下水道管に排水能力不足箇所があり、詳細設計に着手する。

計画の見直し

問 国土利用計画などの抜本的な見直しが必要では。

村長 現在の総合計画や

基本構想を社会情勢の変化に応じ見直ししていく。

問 地価の高騰を避けるために民間を誘導する地区整備計画と併せ、公的な住居系土地利用計画の考えは。

村長 五反田・亀岡地区の地区計画もあり、国道457号と4号の間を中心に計画していく。

目指すまちづくり
問 半導体工場立地に伴う「目指すまちづくり」は。

村長 本村は、大きく様変わりすると思うが、現時点では工場の規模など不明であり、半導体産業の集積に必要な需要の情報収集をし、適時的確な政策を打ち出していく。

問 職住近接型の「まちづくり」を進めるべきでは。
村長 住んでいる方々が良さを実感できる村づくりを構築していく。



地域に密着した都市計画を!

委員会 R レポート Report

議会運営

調査年月日:令和5年8月7日/令和6年2月13日

通年議会

◎通年議会とは会期を1年として、議会の判断で必要に応じて会議を開けるようにする制度。議会活動の活性化を図るため現在導入に向けて検討中。

・通年議会の2つのパターン

従来の定例会に工夫を加える方法	新たな通年の会期を採用する方法
<ul style="list-style-type: none">・1年間に招集する定例会の回数を条例で定める。・議会の判断で会議を開くことが可能。	<ul style="list-style-type: none">・条例で定める日から1年間に会期とし、定期的に会議を開く日を設定できる。・議会の判断で会議を開くことが可能。

通年議会に係る視察研修(色麻町・大和町)

◎通年議会のメリット・デメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">・専決処分の減少・本会議が議会主導で出来る・委員会活動の充実	<ul style="list-style-type: none">・費用弁償等経費の増加・委員会の出席増による執行部の負担・緊急な会議による議員活動への影響



色麻町議会



大和町議会

◆調査結果意見

通年議会は閉会中の期間を無くすことによって議会の監視機能の充実を図るとともに、災害時の緊急対策や機能性を高めることができる。しかし、導入にあたっては執行部と協議を重ね調査をさらに進めていく。

議員間の自由討議に係る視察研修(柴田町)

◎議会は言論の場であることを十分に認識し、議員間の自由な討議を中心に運営されなければならない。よって、柴田町議会での自由討議の取り組みを視察研修したもの。

◆調査結果意見

リラックスした雰囲気です少人数で行う自由討議（ワールドカフェ方式）を行い、全会一致の内容を町長へ政策提言を行っている。本村でも自由討議を取り入れ、議員相互間の議論を深めていく。



柴田町議会

Rレポート Report

総務民生

調査年月日:令和6年2月9日/14日

子ども・子育て

◎ききょう平保育園

・概要

種別	認定保育
経営主体	(株)オガワ企画
開設日	平成30年4月1日
定員	40名
保育内容	延長保育・障害保育・一時預かり保育

◆調査結果意見

園長の指導のもと月2回体操教室を実施している。子育て支援の一環として保育園に通っていない子を対象に、親子教室も開催してみてもどうか。



元気いっぱい！体操教室



利活用の検討が必要な多目的施設

多目的施設

◎利活用の用途

- ・子どもの心のケアハウス・シルバー人材センター
- ・書道教室・図書室・多目的ホール

◆調査結果意見

多目的ホールは卓球やバドミントン等を目的に開放をしているが利用者がいないため、利活用について検討されたい。また外壁の錆が目立ち始めている。

移住・定住促進

◎空き家対策

・平成6年度新規事業

補助名	補助対象者	補助対象費用	補助金額
空き家家財等片付け支援補助金	空き家バンク登録者	家財道具等	補助対象費用の $\frac{1}{2}$ (上限10万円)
空き家除却費補助金	空き家等の所有者	空き家等であると判断されている住宅等	補助対象費用の $\frac{1}{2}$ (上限50万円)

◆調査結果意見

片付け支援補助金と除却費補助金をきっかけに、空き家の多岐にわたる問題解決に期待したい。

調査年月日:令和6年2月2日/16日

学力向上

令和5年度についてはCRT（標準学力検査）検査を1回行ったが、令和6年度小学校全学年、中学校全生徒に対し2回実施する。

大衡中学校授業参観

2年生科学の授業、電流の流れについて、直列回路と並列回路に伝わる電圧と電流の関係について、タブレットの回路図をもとにして回路を組み電圧電流の測定を行いそのデータを各自タブレットの所定場所に入力しデータ化とグラフ化に整える授業を進めている。



タブレットのフル活用を

◆調査結果意見

CRT（標準学力検査）検査の結果を示すだけでなく、家庭を支援するため学校教員とともに努められたい。



造成中の工業団地

第二仙台北部中核工業団地(松の平三丁目)

工期：2021年10月5日～2025年3月31日

分譲予定：2025年4月～

開発面積：45ha・4区画

上北沢排水処理場(村で視察調査)

- ◎令和5年9月22日に来村
経済産業省資源エネルギー庁・石炭政策課
東北経済産業局資源・燃料課
(独) エネルギー・金属鉱物資源機構九州支部
- ◎令和5年11月13日秋田県小坂町相内鉱山視察
秋田県鹿角郡小坂町町民課
経済産業省資源エネルギー庁・石炭政策課
東北経済産業局資源・燃料課
村長・産業振興課

◆調査結果意見

2施設の視察をもとに最適な処理施設になるよう事業着手を早期に進められたい。村として関係機関と情報共有を図りながら更新方法を策定し、実証実験及び検討会を計画している。



秋田県小坂町相内鉱山沈降池



古川学園中学校 1年
佐々木優希奈さん

将来の自分

私の将来の夢は、管理栄養士です。理由は、おいしいものをみんなに届けたいと思っただけです。私のお母さんは

会社で、自分で献立を考えて、たくさんの人においしい料理を作っています。家でも栄養のあるおいしい料理を作ってくれます。私もお母さんのように人を喜ばせることのできる料理を作りたいです。そのため、日ごろから料理の手伝いをたくさんしていきたいです。



大衡中学校 3年
佐々木美桜さん

職場体験を通して

私の夢は保育士になることです。なぜなら、職場体験での子供達との触れ合いの中で、保育士という仕事の重要性や

子供への接し方を学び、子供達の成長を手助けできるようになりたいと感じたからです。たくさんの方の役に立てる存在になることを目指していきたいと思っています。そのため、学んだことを活かして努力を続け、専門的な知識や技術を身につけて、保育士になることを実現できるように夢に向かって頑張っています。

わたしの夢

短歌でつづる我が村

衡下

なかがわ 中川 嘉一さん

万葉の里おおひらの町づくり
農工併進で進み行くべし
達居森に朝陽輝き大衡に
辰年迎え爽やかなれど
シクラメン赤と桃色部屋で咲き
作りし友の笑顔が浮かぶ
牛飼いのまぼい夫婦が
JA新みやぎの表紙を飾る
トヨタ社の隣の団地に大企業
半導体の会社来ぞと
奥州街道真中通りし団地なり
半導体の会社来るのは
大衡の昼の人口二万人
夜の人口5千人ではだめ
雪降らぬ稲田に舞い降りし
白鳥の二十羽程が落穂拾いぬ
銀色に輝く船形のブナ林
流れ来る水で農を営む
遊水地に囲まれ我田の
ひとめぼれおいしいですよ
おかわりどうぞ

みんなの声



ともに歩んでダイヤモンド婚

なつかしい木造の旧役場庁舎です。昭和57年に移転するまで使用されていきました。跡地はJA農機センターになっています。

表紙写真

あとがき

新たな年度を迎え、議会広報が発行してから50年が経過し200号となりました。広報紙の中で歴史を振り返ってみると議員一人一人の責任ある発言や行動が見えてきます。今後も住民から信頼される議会でありたい。
(山本 信悟)

編集 広報広聴常任委員会

- 委員長 赤間しづ江
- 広報分科会
- 会長 石川 敏
- 副会長 小川 克也
- 委員 鈴木 和信
- 委員 早坂 美華
- 委員 山本 信悟
- 発行責任者
- 議長 高橋 浩之

